

本院では、患者様の権利を守り、患者様が安心して診療が受けられますように、担当医師から手術・麻酔・検査・処置などにつきましては十分な説明を行い、患者様からの自由意志による同意を得たうえで診療を行いたいと考えています。担当医師の説明を納得されその診療行為の実施に同意されるときには署名をお返し下さい。

診療行為の名称 後腹膜腫瘍摘除術+左尾状葉切除術

説明内容

1. 病名・病態

後腹膜悪性腫瘍

2. 検査・治療の目的

(1) 目的(必要性・有効性・方法・種類 など)

術前診断で上記診断となった。切除可能な場合は切除を行うことが一般的である。病変部をすべて取り除くには上記手術が必要となる。

(2) 実施予定日/予定期間

手術予定日: 2019 年 6 月 24 日

3. 検査・治療の概要と注意事項

(1) 治療・検査の内容や性格

①開腹

②肝授動、肝切除

③止血、洗浄、ドレーン留置、閉腹

(2) 治療・検査の注意事項(療養上の注意点、予後など)

切除により病変の完全切除が期待できますが、安全性の観点から切除限界があるため、すべての病変が切除できず、癌の遺残がある場合があります。また、他臓器への浸潤が認められた場合は手術は中止となります。

4. 検査・治療に伴う危険性とその発生率

全国の肝胆膵外科学会高度技能医修練施設の成績では、手術関連死亡率;肝区域切除術以下→<1%、右・左肝切除→2-3%、左三区域切除→5-10%との報告があります。

今回の手術では、同等の危険度/

手術に直接関連した主な合併症

① 出血: 術中の出血に対して輸血を行う可能性があります。術後に出血に対して血管塞栓術や再手術が必要になることがあります。

②胆汁漏: 肝切離面から胆汁がにじみ出ることがあります。縫合不全と同様、ドレーンの入れ替

え、穿刺ドレナージ、再手術で対応します。

③腹腔内膿瘍 多くは上記①、②が原因となりますが、それ以外でも腹腔内に汚れた腹水がたまることがあります（腹腔内膿瘍）。穿刺ドレナージや再手術で対応します。

④創感染 傷が化膿して洗浄が必要になることがあります。治癒が不良で腹壁癒着ヘルニアが続発することがあります。

⑤肝梗塞 効果的な治療方法はなく、経過観察となります。広範囲になれば肝不全に発展することがあります。

⑥門脈血栓 門脈内に血栓が生じ、肝機能が低下する場合があります。血栓溶解療法や抗凝固剤点滴（または内服）を行います。

⑦肝不全 本術式の手術関連死亡の死因として最も多い合併症です。肝庇護療法、高気圧酸素療法、血漿交換などの治療を行いますが、治療効果は限定的です。

⑧深部静脈血栓症、肺塞栓などに発展することがあります。血栓溶解療法を行います。

⑨その他胸水、無気肺、腹水、腸閉塞、手術に直接関連しない合併症

⑩心筋梗塞（心不全）

⑪急性腎不全 透析が必要になることがあります。

⑫肺炎（急性呼吸不全） 人工呼吸管理が必要になることがあります。

⑬脳出血、脳梗塞

⑭消化管損傷

5. 偶発症・合併症発生時の対応（専門科との連携体制など）

上記⑩～⑬や、その他偶発症が発生した場合は、院内の専門診療科と協力し治療を進めます。

6. 代替手段と危険性

（1）代替可能な検査・治療とそれに伴う危険性とその発生率

化学療法：これまで、根治した報告はありません。

放射線療法：全身状態、進行度などで手術、化学療法が困難な場合に選択します。

経過観察：病状が進行します。

（2）セカンドオピニオン

治療の進行状況や治療選択などについて、現在診療を受けている医師とは別の医師に意見を求め、患者様が納得した上で治療法を決めることができます。セカンドオピニオンを希望される場合は、必要に応じて適切な院内診療科あるいは外部の医療機関を紹介することができます。

7. 検査・治療を行わなかった場合に予想される経過：

腫瘍が進行・増大し、疼痛、黄疸、消化管圧迫による通過障害、脈管系の狭窄による血流障害を起こす可能性がある。その場合手術不可能となる可能性がある。

8. 検査・治療の同意撤回

検査・治療の実施直前までに同意を撤回することができます。同意を拒否されても、または実施直前までに同意を撤回されても、診療上、不利益を受けることはありません。

9. 平日・夜間・休日の連絡先

上記説明内容についてお尋ねになりたい場合は、以下の連絡先にいつでもご連絡ください。

平日 9:00~17:00: 096-373-5540 (消化器外科外来)

夜間・休日: 096-373-7409 (東病棟 4 階・消化器外科病棟)

096-373-7021 (西病棟 4 階・消化器外科病棟)

10. その他: (参考文献など)

手術中の所見や全身の状態により、手術の中止や術式の変更や中止が必要になる可能性があります。
合併症が発生した場合はその都度説明し、対処します。

平成 26 年 6 月 21 日

熊本大学医学部附属病院

診療科名 (部)

消化器外科

説明した医師名

村田 隆志



診療科名 (部)

消化

同席者

田中 信明

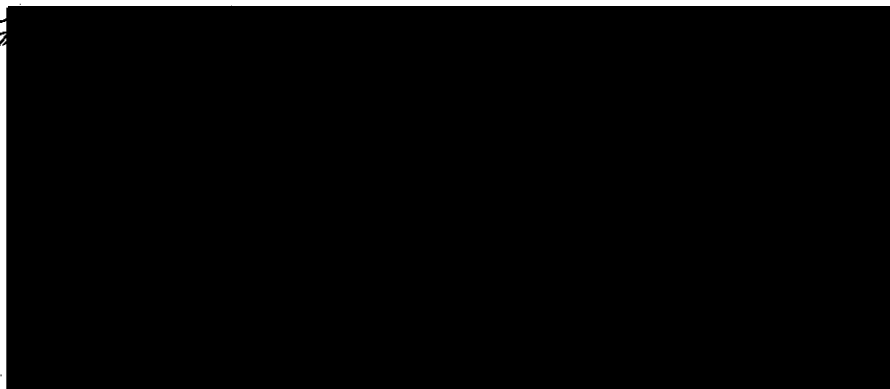


(医師又は看護師)

熊本大学医学部附属病院長 殿

私は、上記診療行為について十分な説明を受け、納得しましたので実施に同意します。なお、上記の診療行為中、予期しない生命にかかわるような緊急状況が発生した場合は、医師が必要と判断した処置を行うことも同意します。

令和 2 年 6 月 21 日



ください。)